

5. 対応方針(案)のまとめ

31

1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- ①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保
 - ・代替路の確保
 - ・防災拠点施設や避難路との連携
- ②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現
- ③速達性・走行性の向上により産業振興を支援
- ④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

○当該地域は、南海トラフ地震発生時に、最大津波高19mが、国道55号の約6割が浸水すると予測
また、国道55号は急カーブが多く、台風に伴う豪雨や高波による通行止めも発生、日常の通行、救急搬送及び農産品等の輸送などに支障

○地震津波発生時に地域の分断・孤立を解消、円滑な救命・救急活動のアクセスを確保、また、地域住民の安全性・利便性の向上及び産業・観光振興を支援するためには信頼性・速達性・走行性に優れた道路の整備が急務

○意見聴取結果でも、国道55号の代わりとして災害時に機能し、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の早期整備が強く望まれている。

2. 対応方針(案)

(1)ルート帯について

『案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案』を対応方針(案)とする。

【理由】

○案①は、案②に比べ、すべての政策目標の達成が見込め、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道55号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」という点で優れており、日常はもとより、地震・津波などの災害発生時においても、信頼性・速達性・走行性に優れた道路ネットワークを形成することができる。

○また、地域への意見聴取結果で、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」が重要との意見も多く、案①は、地域のニーズにも応えられる。

(2)インターチェンジ位置について

○地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、災害(地震・津波等)の影響を受けない機能し、地域の防災拠点施設、市街地(集落)、広い道路と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

3. その他

○詳細なルート・構造の検討にあたって、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮及びコスト削減に配慮する。

○地域防災公園などの防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び町と連携して検討を行う。

○特に、宍喰地区は、地震・津波発生時に大きな被害が予測され、分断・孤立が懸念される地区であるため、地域防災公園の整備と合わせて自動車専用道路への出入口の確保について、今後、県及び町と連携して検討を行う。

新

修正箇所

5. 対応方針(案)のまとめ

31

1. 道路整備の必要性

政策目標を実現できる道路整備を検討

【政策目標】

- ①南海トラフ地震に備えた信頼性の高いネットワークの確保
 - ・代替路の確保
 - ・防災拠点施設や避難路との連携
- ②救急医療機関への速達性の向上・安静搬送の実現
- ③速達性・走行性の向上により産業振興を支援
- ④地域間の交流促進により広域的な観光振興を支援

○当該地域は、南海トラフ地震発生時に、最大津波高19mが、国道55号の約6割が浸水すると予測
また、国道55号は急カーブが多く、台風に伴う豪雨や高波による通行止めも発生、日常の通行、救急搬送及び農産品等の輸送などに支障

○地震津波発生時に地域の分断・孤立を解消、円滑な救命・救急活動のアクセスを確保、また、地域住民の安全性・利便性の向上及び産業・観光振興を支援するためには、信頼性・速達性・走行性に優れた道路の整備が急務

○意見聴取結果でも、国道55号の代わりとして災害時に機能し、円滑な救命・救助活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができるとともに、大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動ができる道路が重要という意見が多く、このような政策目標を実現できる道路の早期整備が強く望まれている。

2. 対応方針(案)

(1)ルート帯について

『案① 市街地(集落)との連絡性を優先するバイパス案』を対応方針(案)とする。

【理由】

○案①は、案②に比べ、すべての政策目標の達成が見込め、地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、「国道55号の代わりとして利用できること」、「災害発生時に円滑な救命・救急活動のため、地域の防災拠点施設と連絡ができること」、「大きな病院や市場や観光地まで早くスムーズに移動できること」という点で優れており、日常はもとより、地震・津波などの災害発生時においても、信頼性・速達性・走行性に優れた道路ネットワークを形成することができる。

○また、地域への意見聴取結果で、「災害(地震・津波等)に強く機能すること」が重要との意見も多く、案①は、地域のニーズにも応えられる。

(2)インターチェンジ位置について

○地域への意見聴取結果で、重要との意見が多く寄せられた、災害(地震・津波等)の影響を受けない機能し、地域の防災拠点施設、市街地(集落)、広い道路と円滑に連絡できることに配慮した配置案とする。

3. その他

○詳細なルート・構造の検討にあたって、自然環境や生活環境等への影響、整備期間の短縮及びコスト削減に配慮する。

○地域防災公園などの防災拠点施設との連絡方法、防災や観光の拠点となる休憩施設の整備について、今後、県及び町と連携して検討を行う。

旧